

# 鍼灸治療技術検討 第8報 咽頭痛に対して少商穴を使用した 3症例

清野鍼灸整骨院

- 猪熊遥香、吉川佳輔、丸山典子  
南波利宗、山田昌紀、清野充典

# 【目的】

日本の鍼灸治療は、患者の病態に応じて手技を選択することにより、多種の病気を治療してきた医療である。

当院では、特定の病態に対し有効な技術と無効な技術があることに着眼し、誰もが同様の技術を用いた際に有効でかつ再現性のある技法の確立を検討している。

今回は、咽頭痛がある患者に対し、少商穴へ治療を行ったところ、有効な効果が得られたので報告する。

# 【症例1】

## 症例1

- ・65歳、女性。

- ・現病歴

X年2月10日の朝に、嚥下時の咽頭痛・喉の違和感(イガイガ感)を発症し、即日当院を受診した。

# 【症例2】

## 症例2

- ・73歳、女性。

- ・現病歴

一週間前より、喉の痛み・渴きを発症した。徐々に増悪し、受診前日は咳と痰を伴い、睡眠困難であった。X年4月20日に当院を受診した。

# 【症例3】

## 症例3

- ・73歳、女性(症例2と同一人物)。

- ・現病歴

X年10月28日に、発熱・鼻水・咳を伴う喉の痛みを発症し、X年10月29日に当院を受診した。

# 【治療・経過1】

## 症例1

- ・1診目(2月10日)

背部兪穴・要穴に治療した。喉の痛みが残存したため、両側の少商穴に施灸をした。

- ・2診目(2月15日)

治療前の問診で、違和感が残存したため、背部兪穴・要穴に鍼治療、両側の少商穴に施灸をした。

- ・3診目(2月17日)

喉の痛みが消失した。

# 【治療・経過2】

## 症例2

・1診目(4月20日)

背部兪穴・要穴に治療した。喉の痛みが残存したため両側の少商穴に、鬱血に対する治療をした。

片側の施術後に痛みが軽減し、両側を施術後にほぼ消失した。

# 【治療・経過3】

## 症例3

- ・1診目(10月29日)

背部兪穴・要穴に治療した。

- ・2診目(10月30日)

治療前の問診で、喉の痛みが残存したため、同様の治療を行った。

- ・3診目(11月7日)

同様の治療を行った。治療後、喉の痛みが残存したため、少商穴に施灸した。

- ・4診目(11月11日)

喉の痛みが消失した。

# 【写真1】



少商穴(左側)



施灸の例

# 【写真2】



三稜鉞

使用例1

# 【写真3】



使用例2

## 【考察】

当院では、従来、咽頭痛に対し背部兪穴・要穴に鍼灸治療を行っていた。

今回は、従来の治療では取りきれなかった症状に対して、少商穴に治療を行ったところ、喉の痛みが軽減した。

各手技の有効性については、今後、症例数を増やし検討を重ねる必要があると思われる。

## 【結語】

咽頭部の痛みに対する治療で、少商穴を用いることにより、症状の改善が確認できた。

